

沓岐構想区域の状況（平成30年度）

具体的対応方針

1 役割（・・特に地域において担うべき役割、・・・地域において担うべき役割）

		がん	脳卒中	心疾患疾病		糖尿病	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	議論の状況
				急性期	回復期								
長崎県沓岐病院	2018												協議済
	2025												

2 病床数（2017年・平成29年度病床機能報告(平成29年7月1日時点)、2025年・公的医療機関等2025プラン）

		合計	高度	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	介護等	議論の状況
		長崎県沓岐病院	2017	168		77	43	48	
	2025	168		77	43	48			

【共通項目】

今後も2025年に向け、「公的医療機関等2025プラン」内の具体的な対応方針については、構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、毎年、地域医療構想調整会議において協議を行い、必要に応じて見直しを行う。

この際、将来の病床数の必要量を見極めながら、公的医療機関等と民間医療機関の役割分担について、公的医療機関等でなければ担えない分野に重点化されているか確認するものとする。

なお、地域医療構想を進めていくに当たっては、医療機関の主体的な取組みや地域住民の協力が不可欠であることから、個別医療機関ごとの医療機能や診療実績、各種補助金や繰入金等について公表していく。

（協議事項）

- ・公的医療機関等と民間医療機関の役割分担（医療機能の変更等）
- ・将来の病床数の必要量を踏まえた取組

【個別医療機関】沓岐病院

長崎県病院企業団において、経営改善や病院再編等の方向性を示すものとして「第2次中期経営計画」（計画期間：2017～2020年度）を定めており、その推進や次期以降の中期経営計画の策定に当たって、地域の医療需要等の動向を踏まえた地域に必要な病床数及び病床機能の見直しについて検討を行った内容を、その都度、必要に応じて記載するものとする。

病院名	自施設の現状	自施設の課題	今後の方針		具体的な計画 (4機能の病床のあり方) 【一般病床+療養病床】				
			地域において今後担うべき役割		H28報告		2025		
長崎県各岐病院	地域の中での役割 ・救急告示病院 ・二次救急輪番制病院 ・災害拠点病院 ・長崎DMAT指定病院 ・がん診療離島中核病院 ・第二種感染症指定医療機関 診療実績（平成28年度） 延入院患者数：56,377人（1日平均154.5人） 平均在院日数：急性期病棟11.9日、地域包括ケア病棟27.2日、療養病棟63.7日 病床稼働率：急性期病棟89.7%、地域包括ケア病棟99.5%、療養病棟87.6%	<ul style="list-style-type: none"> 医療体制の充実・経営の安定化に向けて、特に不足する常勤医師をはじめとする医療従事者の確保が必要であり、将来の地域医療を担う若い医師を育成する体制の整備や職員研修の充実などを図り、医療技術者の人材育成に取り組む必要がある。 人口減少や少子・高齢化の急速な進行、島外への患者流出など、今後の医療需要等を見極め、可能な限り島内で完結できる医療提供体制の充実を図るとともに、適正な病棟体制・病床数などの診療体制見直しの検討が必要。 質の高い医療を安定的かつ継続的に提供していくため、島内外の医療機関や介護施設等とも連携を図りながら、急性期から回復期の患者受入体制を強化し、経営を健全化する必要がある。 	長崎県病院企業団では、患者数減少の状況に歯止めをかけ、地域に必要とされる医療の質の維持・向上を図るため、“郷きょう診しん郷きょう創そう”をスローガンに行政と協働して地域外患者流出の抑制に努めているところであり、第2次中期経営計画での各岐病院の果たすべき役割は、以下のとおり。 ・各岐医療圏の中核病院として、二次救急をはじめ急性期医療を中心に可能な限り島内完結を目指した質の高い医療を提供。 ・地域包括ケアシステムの中核を担う病院として、島内の後方支援病院、診療所、介護等関係機関との連携を充実するとともに、あじさいネットの積極的な活用によるネットワークづくり等、地域包括ケアシステムの構築に向けた調整・支援を実施。 ・医師等医療従事者の研修受入体制を整備し、地域医療を担う人材の育成を行います。		高度	-	現状維持 	高度	-
					急性	77		急性	77
					回復	43		回復	43
					慢性	48		慢性	48